

11月報(2020年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらず福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26
☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615
e-mail :fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp



11月は「死者の月」

亡くなった方々を思い起し、ともに祈りましょう！！

11月2日は「死者の日」。諸聖人の祭日（11月1日）の翌日にすべての死者を記念する習慣は、998年にクリュニー修道院のオディロンによって始められ、クリュニーの修道士たちの影響によって11世紀には広く行われるようになりました。ローマ教会には1311年の暦に初めて記されていますが、それ以前からローマでも死者の日の記念が行われていたと思われています。

わたしたちは生者と死者を問わず万人との連帯関係にあり、その連帯関係は聖徒の交わりを土台としています。「聖徒の交わり」とは、「聖なるものの分かち合い」と「聖なる人々の交わり」という意味を持ち、聖徒たちの交わりが、まさに教会なのです。すべての罪はこの交わりを損なうものです。

『毎日の読書』より

11月2日（月）死者の日 18時ミサ

死者のためのミサにあたって、

皆様から沢山のミサ依頼をお受けいたしました。

10月31日（土）現在で

申込者…65名

短冊数…287名

献金…181,500円 は教会の一般会計に入れさせていただきます。

信仰を生きるシリーズの原稿を頼まれて、こんな未熟な私には書けないと思いました。しかし、最近起きた奇跡について皆さんにお知らせした方がいいということかなと思い、書かせていただくことにしました。

10月11日（日）の夜、義母の様子がおかしいということで、実家に行っていた夫から電話がかかってきました。「お母さんがいけんけえ来る？」と涙をこらえたような声です。ただごとではない様子に手が震えながらアヴェマリアの祈りを唱えつつ家へ向かいました。義母はみんなの問いかけにも応えず、苦しそうに息をしているだけでした。天国に行くのが近いと感じました。これは神父様に病者の塗油を授けていただかなくては！と思い、提案しました。しかし、「最期の最期の時じゃないといけないと聞いたよ。」という声がありました。私は、神父様が言われていた「本当に悪い状況の時にお願いするべきだけど、それで元気になる人もいます。そしたら、またお願いしてもいいですよ。」と言われていたことを伝えました。すると、じゃあ、神父様にお願いしようかということになり、神父様に来ていただきました。義母は、神父様が来てお祈りをしてくださった間、ずっと意識のないままでした。お祈りの中で罪のゆるしがあったことと、神父様が義母に「安心してくださいね。」と声をかけてくださったことで、本当に良かったと私まで安心出来ました。神父様が帰られて、義母の兄弟を呼ぶべきかと話したりして20分か30分がたった頃、姉が「お母さん、服を着替える？」と声をかけて体を動かすと、なんと、義母の意識が戻り、起き上がるまでになったのです。私は奇跡が起こったと思いました。熱心にずっと教会へ行き、お祈りをしていた義母だったから奇跡が起こったのかなと思いました。義母との時間がもうなくなると思っていたのに、義母との時間を延長していただけたことには、きっと何か意味があるのだろうと感じました。後日、義母にその日のことを話すと「そうじゃったん。神父様が来られたの、全然知らなかった。皆さん、ありがとう。」と手を合わせていました。こんなに元気なお義母さんと話が出来て、本当に嬉しく涙が出そうになりました。この出来事は、私にとって大きな奇跡でした。

今回、この原稿を書くにあたって、自分の人生を振り返ってみました。考えてみると実は、小さな奇跡はたくさんありました。

暁の星中学校でキリスト教と出会ったこと、初めて訪ねた大学の近くの教会で親切にさせていただいたこと、地元に戻って初めて福山教会を訪ねた日が復活祭の日で、シスター石井が紹介してくださった青年会で夫と出会ったこと、4人の子の母親になったこと、たくさんの神父様方、シスター方、信者の皆さんとの出会いなど全てが奇跡であり神様が導いてくださったことなのだと感じるのです。そして、皆さんに感謝、神様に感謝の気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございます！

基本的なことも分かっていない未熟者の私ですが神様のお導き、奇跡に気づいて感謝するこ

とはできるかなと少し自信が持ててきました。理想を考えると遠い道のりですが、少しずつ頑張っていこうと思います。この原稿を書く機会を与えてくださってありがとうございます。

南相馬便り⑳ 2020年10月 援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子



10月の声を聴きさすがに涼しくなってきました。お元気でしょうか？東京電力福島第一原子力発電所（1F）の見学の続きです。事故現場を見下ろすことのできる見晴らし台が設置されていて、1号機建屋の上層部が爆発で吹っ飛んだままの骨組みをさらした無残な姿が目の前にあります。この様子を目の前にして一番に思ったことは、起こってしまったことを今更なしにすることはできないのですが、75年前に二つの原子爆弾で原子力の破壊力のすごさを体験した日本人が、原子力の平和利用、しかも安全神話でくるまれた平和利用という言葉に飛びついたのは当然のことでしょう。科学的な根拠を持っていたはずかの人々が反対を唱えても、時の趨勢には抗えなかったのです。気づかないうちに日本全国に54基もの原子力発電所が作られたのです。福島の第一原発の事故があって初めて、こんなに多くの原発が日本にあることに気づいたのは、私を含め大多数の人の思いだったでしょう。

1Fの工事現場を回って説明を受け、現在、放射線の危険を浴びながら（もちろん今は人体に影響のないよう配慮された環境になっていますが）、懸命な廃炉作業に従事しておられる人々のご苦勞を思うと頭が下がります。目に見える成果があるわけではありません。数十年の長い年月の先を見据えて、今生まれてくる子供たちが、大人になってもまだ終わっていないかもしれない、気が遠くなるような作業を黙々と、一日に延べ約3~4000人の作業員が働いておられます。私の毎朝6時頃の通勤時に対向車の交通量がとても多いのです。大型トラックに何十台も出会い、その作業員であろう乗用車、軽トラックなど百数十台と出会います。ほとんど廃炉作業員、除染土の中間貯蔵施設運搬車です。私は車の中で今日も無事故で安全に作業して、無事に家族のもとに帰れますように、と一台一台の車に向かって祈っています。



1Fの原子炉建屋の中は、非常に線量が高く人が作業できる時間は限られていて、時間ごとに交代して作業されているようです。そのため効率が悪く、また内部の状況を把握するために人間が入ることのできないところをロボットが探索するようです。原子炉の中の燃料デブリの調査に入った第一号のロボットは壊れてしまったと聞きました。この廃炉作業の過程で、日本の超最先端の技術が開発されているようです。その技術は、社会のあらゆる分野に応用されていくのでしょうか。ロボットの開発のために南相馬市原町区にロボットテストフィールドという広大な施設がこの3月にフルオープンしました。そこではドローンや水中の様々なデータを採

取するロボットなどの実験、実践訓練が行われ、1Fの廃炉作業のための機械が開発されています。これについてはまた次号に譲って、話を元に戻します。

大爆発を起こした一号機の建屋の前で写真も撮って頂いたのですが、門外不出ということでここに載せることができません。このことでもどんなに厳重な警戒がされているかわかるとおもいます。映像などどこでどのように加工されるかわからないからでしょう。敷地の中でここだけ外に出て直に現場を見ることができました。その場所の線量計は $85.2\mu\text{Sv/h}$ でした。小高の修道院周辺が平常 $0.085\mu\text{Sv/h}$ 、福山もこれくらいでしょう。通常、東京は $0.04\mu\text{Sv/h}$ 。全国的にみると関西地方、広島県は結構高い値だそうです。建屋の前に普段の格好（長袖、ズボン厚手のソックス、手袋着用）で長時間留まることはできません。原発の作られた社会的背景から、原発事故の様子、廃炉の説明、そして今後については、一般社団法人AFWの吉川彰浩著「福島第一原発と地域の未来の先に・・・わたしたちが育てていく未来～」という冊子(写真の本です)にとっても分かりやすく説明されています。AFWのHPをご覧ください。続きは次号に…もっともっとお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。



11月・12月の行事予定

| 11月 | | 12月 | |
|-------|--------------------------|--------------|---------------------|
| 1(日) | 諸聖人 14時：墓地ミサ | 5(土) 6(日) | 待降節黙想会 宣教地召命促進の日 |
| 2(月) | 死者の日 18時死者の為のミサ | 8(火) | 無原罪の聖マリア |
| 3(火) | 満葉杯中止 | 12(土) | 聖園クリスマス会 |
| 14(土) | 備後協働体侍者の集まり | 24(木) | クリスマスイブ |
| 15(日) | 七五三のお祝い | 25(金) | 主の降誕 |
| 28(土) | シルベストレ助祭司祭叙階式 | 27(日) | 聖家族 |
| 29(日) | 待降節第一主日 教会大掃除 日曜学校飾り付 | 28(月) | 幼子殉教者 |

【屋上防水工事完成】

—藤井正晴さんの浄財によって—

建設委員会 担当：藤井幸恵

長年懸案だった屋上防水工事が10月14日、(株)ラックス(業者)、神父様、建設委員が共に立ち会い出来上がりを最終確認いたしました。やっと完成。雨が多かったので期間が少し延びましたが無事出来上がりました。業者の好意により、計画にはなかった場所も防水塗装をやってくれました。感謝です。

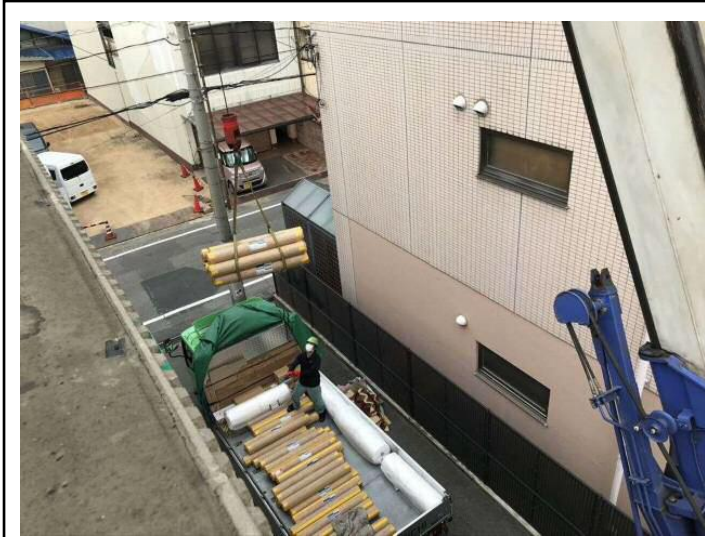
教会の受付及び事務所を長年やってくれていた藤井正晴さんが亡くなる以前から、屋上のヒビ割れを気にし、補修を検討されていたのですが、残念なことに亡くなられた為、一旦保留にしていました。猪口神父様が来られ、この防水工事についての指摘があり、総会では承認を得ていたのでこのたび建設委員で実行の運びとなりました。そしてやっと完成いたしました。これで多分水もれの件は安心だと思えます。なにぶん高い所ですので、完成写真をご覧になって下さい。

工事費用は286万円かかりました。この工事費に関しましては、藤井正晴さんが教会へ寄附して下さった、5,667,483円から払わせて頂くことになりました。

定例委員会で皆様をお願いしたところ、正晴さんも屋上工事はたいそう気にされていたということで、正晴さんの意向を生かせたらと、屋上工事は正晴さんの浄財により完成ということになりました。ここに報告させていただきます。本当に正晴さんに感謝です。皆様正晴さんの為お祈り下さい。

次は、電気工事に入ります。LEDに少しずつ変えていこうと思っています。

これから教会も修理修繕をしないといけなくなります。皆様ご協力をよろしくお願いいたします。



施工前



施工後



